

開催地名	富山県砺波市
開催日時	令和5年11月16日（木） 19：00 ～ 21：00
開催場所	砺波市庄川生涯学習センター
語り部	大河内 喜男 （福島県いわき市）
参加者	砺波市防災士連絡協議会、地区自主防災組織 87 名
開催経緯	当市には、今後30年以内に地震が発生する確率が最も高いとされる「Sランク」に位置づけられている「砺波平野断層帯東部（高清水断層）」が市内を縦走しており、さらに、平成29年12月に富山県が発表した地震被害想定において、石川県の中央部を走る「邑知潟断層帯」の調査結果では、市内で初めて震度7の地震が発生する可能性が示されるなど、地震による被害が危惧されている。 また、平成30年に土砂災害の発生危険がある地区を対象に避難情報（避難準備・高齢者等避難開始）を発令し、避難所を開設したが、行政、自主防災組織及び住民等ともに多くの課題が残る。 災害経験の少ない当市において、今後起こりうる各種災害への対応について、実例を踏まえた訓練の実施などは困難な状況にある。
内容	～震災当日の行動と教訓・災害への備えと命を守る行動～ （1）震災当日 福島県の南端いわき市、その中でも犠牲者が一番多く出た薄磯に住んでいる。震災当日は内陸の病院に居た。地震発生後、いわき市沿岸部では、津波を警戒してすぐに海岸から離れるように繰り返し指示が出されていた。自宅は海岸の堤防のすぐ前にあり、家族のことが心配で、車で自宅に向かってしまった。自宅まであと少しの所で道路が陥没、立ち往生し、ようやく自宅付近にたどり着いた時には、すでに大津波が来た後だった。もし陥没がなく、早めに着いていたら流されていたかもしれない。実際、私の様な行動をとった人たちが大勢津波の犠牲になっている。 津波は一度だけではない。何度も繰り返し、第2波が最も大きい津波で8.51メートルに及んだ。そして世帯数約250世帯780名中116名が命を失った。しかもその6割強が避難をしなかった人、津波を見に行った人、避難が遅れた人である。津波は絶対来ないという思い込みにより、この様な行動で多くの人が犠牲になってしまった。 （2）避難所及び、みなし住宅での生活状況 避難所生活は2か月半に及んだ。避難所生活で一番の課題はトイレの問題である。避難所にくれば何でも貰えると思っでは大間違いである。水、非常食、簡易トイレ、日用品等、各家庭で準備しておく事の重要性を、改めて痛感させられた。 また避難してきた人たちがいかに協力しあえるか、そしてモラルが重要なポイントになる。避難生活が長期化すると色々なストレスがたまる。駐車場以外の通路に車は停め放題、各フロアにごみは捨て放題、果ては部屋からごみをそのまま捨てる人もいる状況

	になってしまった。また窃盗団による盗難被害等（車上荒らし、一晩でカーナビが20台、タイヤ4本根こそぎ持って行かれた事もある）も発生した。平常時では考えられないことが実際に発生した。東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故により、周辺自治体から、約5万人の人々がいわき市に避難してきた事で、道路は毎日渋滞、病院も満員（避難者の憩いの場になってしまい、診察を受けたい人が受けられない）、スーパーでのちょっとした買い物も1時間など、想定していないことが次々と起こった。このような状況の中で、自治組織を作らないとモラルが保てない事を学んだ。もちろん組織の立ち上げはなかなか進まないのが実態である。ただ問題に気が付く人が必ずいる、気が付いた人が声を出して、職員と協力して周りに呼び掛け、協力の輪を広げていく事が大事ある。 （3）災害への備えと命を守る行動 災害が起こった時、一番大事なことは、何があっても一人一人が自分の命を守るということである。自分の命を守る行動を取りながら、周りの人に呼び掛ける事により、多くの人の命を助ける事に繋がる。「逃げろ」と言ってくれた人がいたから助かったと言う人もいる。「逃げろ」と避難を促す事が出来る人間になることも重要である。 そして地震だけでなく、様々な災害から身を守るには、避難所はどこにあるのか、そこに行くルートはどうなっているのか、周辺に危険な箇所はないか等について、自分の目で確かめることが大切だ。家族と一緒に「防災まち歩き」に取り組んでいただきたい。特に子供たちは親がどこに避難しているかわからないことが多い。実際、家族がどこに避難しているか把握できていたら、あの日津波が押し寄せているのに、海方面に向かう事はなかったはずである。家族で防災について話合う、「自分の命は自分で守ろう」 昔、災害は忘れた頃にやってくると言われていたが、今は忘れぬ前に起きてくるのである。よそで起きている災害って、決して他人事ではない、自分事として受け止め災害に対する備えをしっかりとっておくことが重要である。
開催地より	東日本大震災の被災体験談と自主防災組織の役割、期待することについて、具体的なお話を織り交ぜてお話しいただいた。本講演を受けて今後当市としては、自主防災組織中心の避難所運営訓練と、砺波市防災士連絡協議会と連携した防災イベントを開催し、防災意識の向上に努めていきたい。